

平安時代から続く

明珍家52代の伝統――

明珍火箸

入場
無料

明珍宗理鍛冶展 於 兵庫県公館 県政資料館
8月17日(金)～11月17日(土)

兵庫県の伝統工芸「明珍火箸」 独特の音色を奏でる楽器としても高い評価を受ける

明珍宗理鍛冶展

〈開催概要〉

- 開催日時 2018年8月17日（金）から11月17日（土）
平日 9時～17時 土曜日 10時～16時
日・祝日は休館
- 開催場所 兵庫県公館県政資料館 文化の展示室（展示室7）
- アクセス 神戸市営地下鉄「県庁前」駅西5番出口すぐ
JR・阪神「元町」駅西口徒歩約5分
- 入場料 無料
- 主催 兵庫県企画県民部広報戦略課
お問い合わせ 078-362-3823



自在置物 海老

明珍家 52 代当主 明珍宗理 (みょうちん むねみち)

明珍家は平安時代から江戸時代までは武具をつくる甲冑師、
明治以降は火箸をつくる鍛冶職人として鎧・兜の鍛造技術を受け継いできました。
宗理氏は先祖より伝わる匠の技を駆使して火箸のほかに花器・創作楽器などの作品を作り出しました。
伝統を守りながらも時代の流れとともに変化するその作品は見る者を楽しませてくれます。
展覧会では、火箸風鈴のほか花器や自在置物・チタン製の仏具のお鈴や楽器などを展示します。



明珍火箸風鈴

〈主な経歴〉

- | | |
|---------|---|
| 昭和 17 年 | 姫路市に生まれる |
| 平成 4 年 | 第 52 代明珍宗理を襲名 |
| 平成 5 年 | 兵庫県技能功労賞受賞、兵庫県伝統的工芸品に指定 |
| 平成 9 年 | 「音の匠」受賞（社団法人日本オーディオ協会） |
| 平成 14 年 | 2002 FIFA ワールドカップの決勝戦前夜祭で玉鋼火箸使用 |
| 平成 15 年 | 日本文化デザイン賞大賞、同特別賞同時受賞 |
| 平成 19 年 | 山田洋次監督「たそがれ清兵衛」「武士の一分」で効果音に玉鋼火箸使用 |
| 平成 20 年 | パリコレ「イッセイ・ミヤケ」のショーで火箸風鈴使用 |
| 平成 21 年 | 伝統的工芸品産業功労者褒賞受賞 |
| 平成 22 年 | 2010 年 日本 APEC 横浜 各国首脳控室「日本が誇る伝統工芸」特別展示 |
| 平成 23 年 | 「現代の名工」受賞（厚生労働大臣認定） |
| 平成 24 年 | 兵庫県文化功労賞受賞、世界文化遺産 国宝姫路城 平成の大修理に於いて金具を製作 |
| 平成 26 年 | 姫路市芸術文化大賞受賞、黄綬褒章受賞 |
| 平成 28 年 | 文化庁長官表彰受章 |
| 平成 29 年 | 兵庫県文化賞受賞 |
| 平成 30 年 | 国立劇場邦楽公演 日本音楽の流れ「琵琶」で玉鋼火箸、チタンお鈴使用 |



兵庫県公館

明治 35 年に 4 代目県庁舎として建てられ、国の登録有形文化財に指定されています。
迎賓館部門では、毎週土曜日に貴賓室などの内部を限定公開し、
兵庫県文化賞受賞者の絵画などの展示品を無料でご覧いただけます。
県政資料館部門は昨年度リニューアルされ、
兵庫の歩みや産業・文化・ゆかりの人物などを紹介しています。